

---

# 仕 様 書

---

型式 CLSC2SWF-06  
品名 煤除去装置

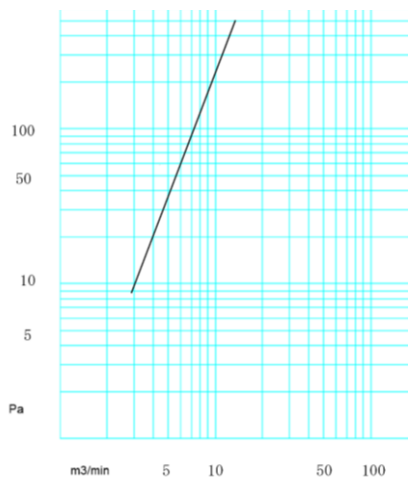
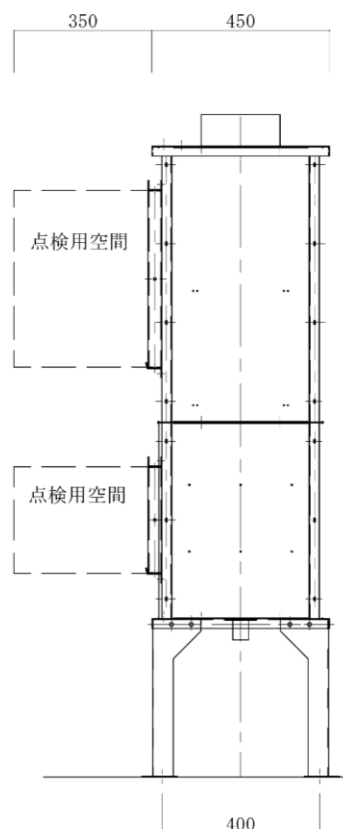
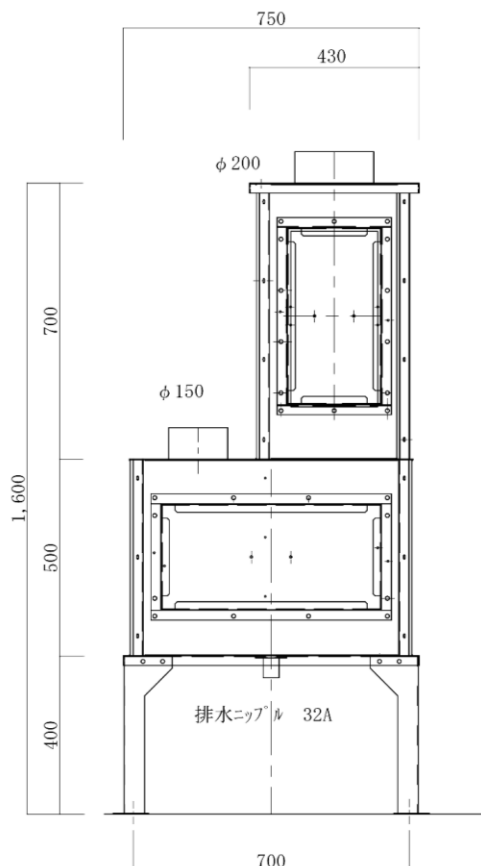
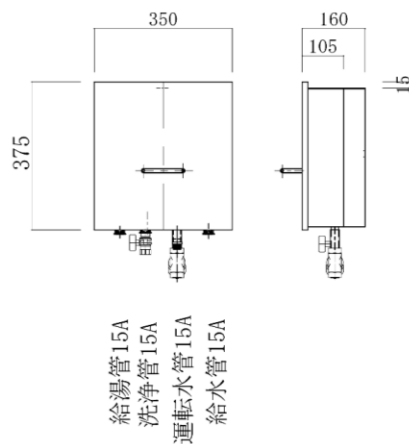
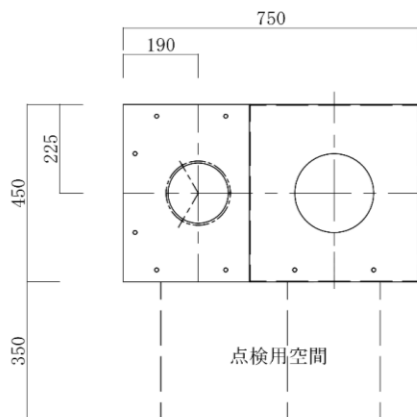
**CLIE**株式会社クリエ

本社：〒431-2102静岡県浜松市浜北区貴布祢3000

TEL:053-401-5881 Fax:053-401-5882

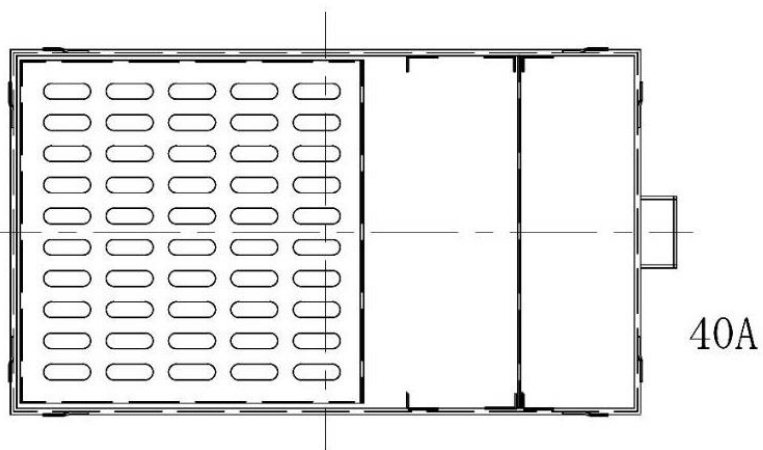
工場：〒932-0836富山県小矢部市埴生2793

TEL:0766-67-4898 Fax:0766-67-4988

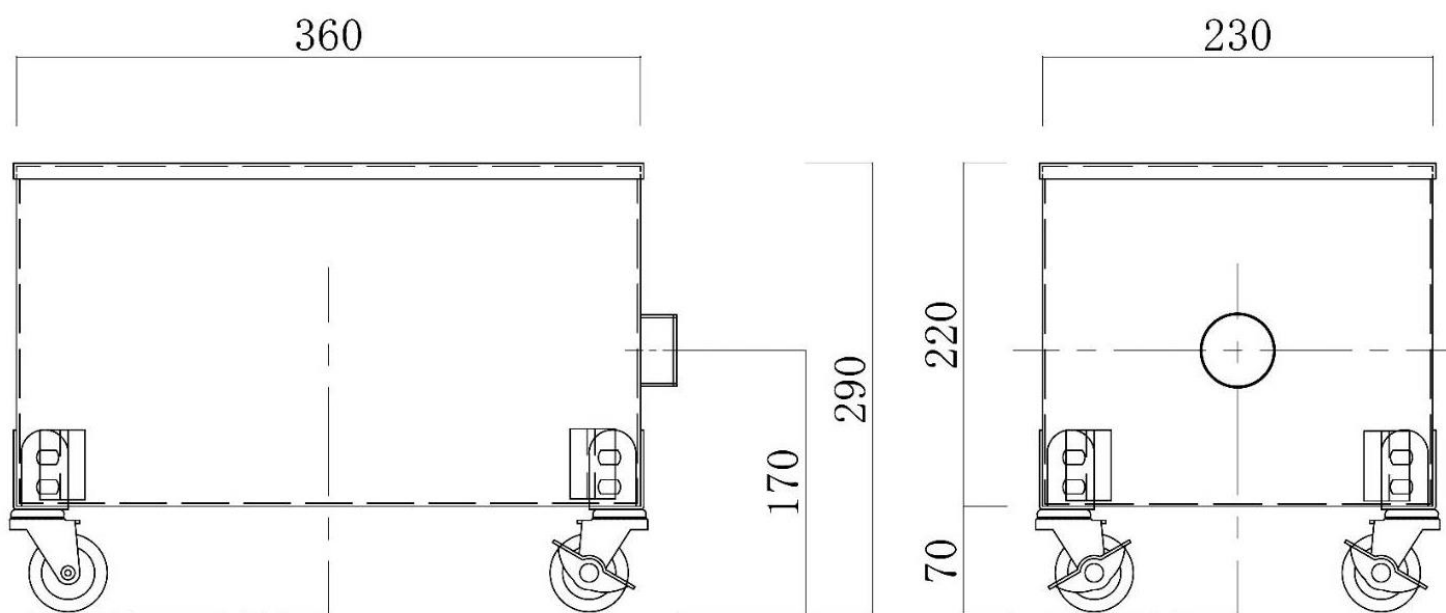


本体使用材料	SUS304 t1.5
本体内部部材	SUS304 t 1.0
支持足	SUS304 t 1.5
電磁弁	鍛造HC-20
噴霧ノズル	SUS316
内部配管	SUS304
Yストレーナー	黄銅
制御BOX	ガルバ鋼板 t 1.0(SUS可)

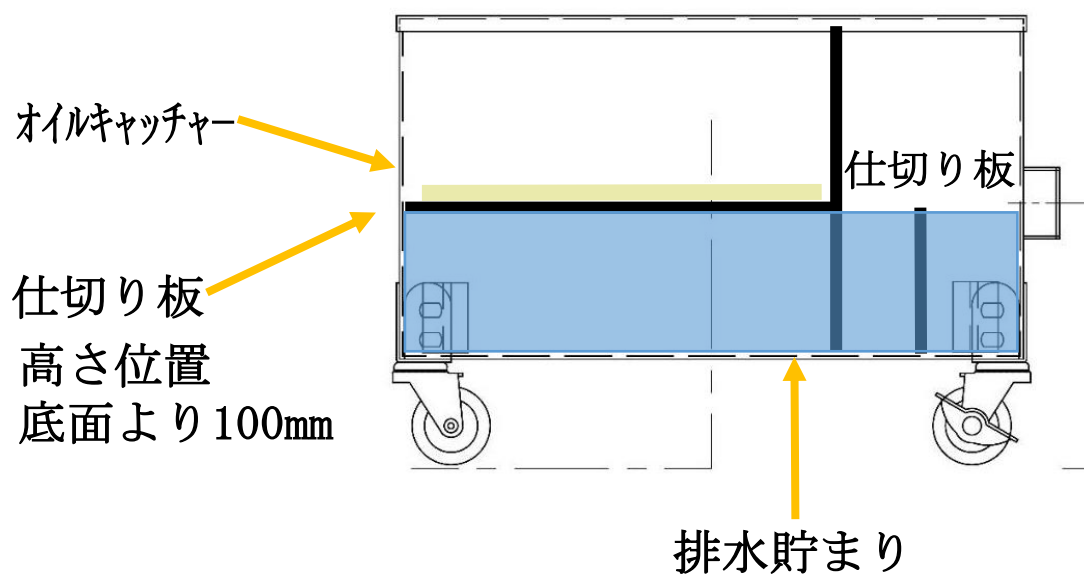
外形寸法	750×450×1,600
Max処理風量	10m³/min
製品重量	102kg
接続口径	Φ 150
出口口径	Φ 200 (Φ 150)
給水口径	15A
排水口径	32A (排水シャバ内径30A)
運転時水量	0.2L/min
洗浄時水量	10L/min
電磁弁	AC100V 6W



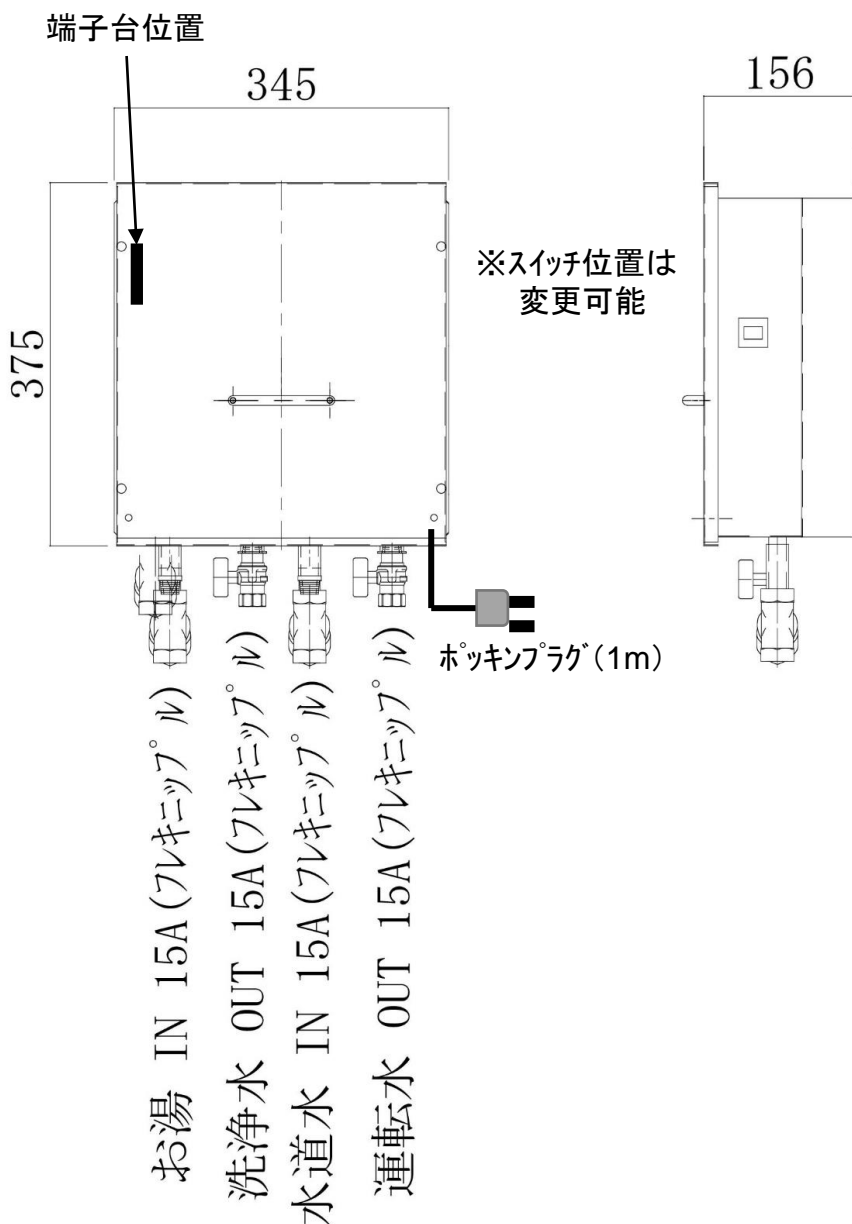
本体外形寸法	360×290×230
排水接続	40A
材質	SUS 304 t1.5
製品重量	5.2kg
標準付属品	排水フレキホース 1m
	オイルキャッチャー 5枚



※キャスター脱着可能  
※ストッパー付き



## 制御BOX

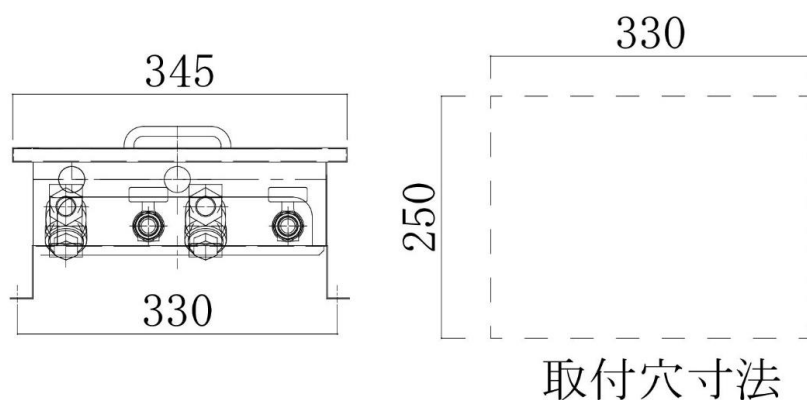


本体外形寸法	345×375×156
本体使用材質	ガルバ鋼板 t1.0
内部配管材質	ステンレス管
給水接続口径	15A
運転給水口径	15A
洗浄給水口径	15A
本体電源	100Vコンセント仕様(1m)
電磁弁	AC100V 6W
製品重量	5.0Kg

※取付位置1m以内にコンセントを設ける

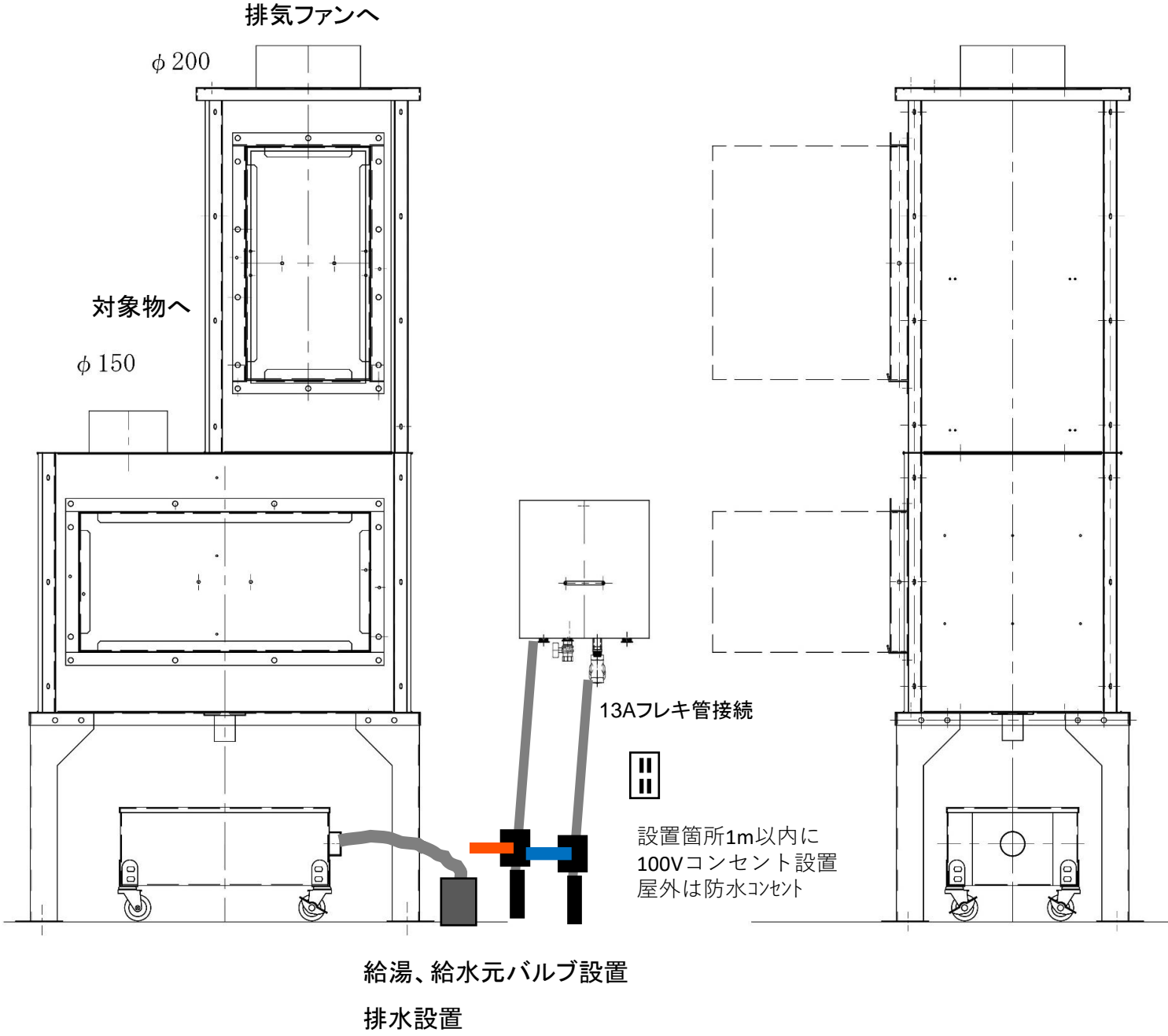
※異常高温時作動信号  
 ※運転管理信号  
 ※洗浄作動信号  
 ※外部ファンによる機械の連動  
 ※スイッチの別置き  
 ※電気信号は、その都度ご指示ください。

※仕様により制御BOXのサイズが変更となる場合がございます。



型式 CLC1S

# 設置図例



# 耐震強度計算書(アンカーボルト)

建築設備耐震設計・施工指針2014年版による

1. 機種 = 煤除去装置

2. 形名 = CLSN2SW

## 3. 機器緒元

(1)①機器質量:M  $M = 102 \text{ kg}$

②機器重量:W  $W = M \times 10/1000 = 1.02 \text{ kN}$

(2)アンカーボルト

①総本数:N  $N = 4 \text{ 本}$

②ボルト径:d(呼称)  $10 \text{ M}$

③一本あたりの軸断面積(呼径による断面積)  $A = 0.785 \text{ cm}^2$

④機器転倒を考えた場合の引張りを受ける片側のアンカーボルト総本数

$N_t = 2 \text{ 本}$

(3)据え付け面より機器重心までの高さ  $h_G = 65 \text{ cm}$

(4)長辺重心位置  $LG(\text{長辺}) = 35 \text{ cm}$

(5)短辺重心位置  $LG(\text{短辺}) = 20 \text{ cm}$

(6)ボルトスパン  $L(\text{長辺}) = 70 \text{ cm}$

(7)ボルトスパン  $L(\text{短辺}) = 40 \text{ cm}$

## 4. 検討計算(各項を四捨五入して算出)

(1)設計用水平震度:KH  $KH = 1.5$

(2)設計用水平地震力:FH  $FH = KH \times W = 1.2 \text{ kN}$

(3)設計用鉛直地震力:FV  $FV = 1/2 \times FH = 0.6 \text{ kN}$

(4)長辺方向アンカーボルトの1本当たりの引き抜き力:Rb

$R_b = \{FH \cdot h_G - (W - FV) \cdot LG\} / \{L \cdot N_t\} = 0.38 \text{ kN}$

$0.38 \text{ kN} < 3.8 \text{ kN}$  (選択したアンカーボルトによる許容引き抜き加重)  
従って 可

(5)短辺方向アンカーボルトの1本当たりの引き抜き力:Rb

$R_b = \{FH \cdot h_G - (W - FV) \cdot LG\} / \{L \cdot N_t\} = 0.69 \text{ kN}$

$0.69 \text{ kN} < 3.8 \text{ kN}$  (選択したアンカーボルトによる許容引き抜き加重)  
従って 可

(6)アンカーボルトの1本当たりに作用するせん断力: $\tau$

$\tau = FH / N \cdot A = 0.28 \text{ kN}$

$0.28 \text{ kN/cm}^2 < 4.4 \text{ kN/cm}^2$   
従って 可

以上の計算より、アンカーボルトは十分な強度を有する。